

4月号 第102号

発行日 : 2025年3月24日

発行 : 虹技株式会社

安全環境管理部 環境管理G
姫路市大津区勘兵衛町4丁目1
☎ 079-236-3257

「虹の森」通信

春は近いと感じる季節ですね。 冷え込んだ冬が終わりを告げようとしています。 それにしてもこの冬は寒かったです。 そのせいかは分かりませんが、タイトルバックには、サザンカの通常なら秋から冬に咲くところ今時分に咲いている姿です。 サザンカはツバキの仲間。 この写真ではツバキとの違いが分かりにくいですが、実物はいわゆるツバキよりちょっと小さめです。 ツバキは散る時に花ごとポトンッと落ちるのに対し、サザンカの方は花びらが一枚ずつ散るので、そこが大きく違います。 唱歌「たきび」の歌詞に使われるように、寒い季節に咲くイメージがありますが、実は寒さにはそんなに強くはないようで、北国にはあまり自生していません。

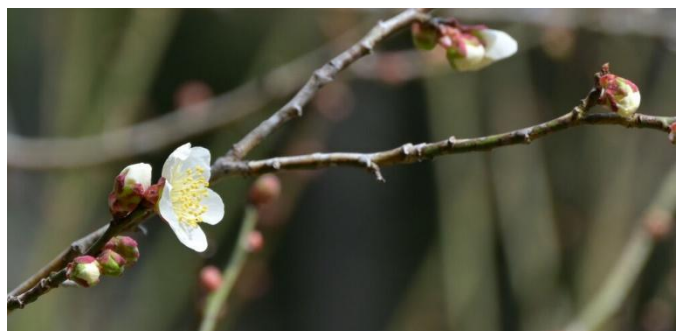


こちらは、アカハバヒロオオキノコです。 体長は、わずか5~6mmほどで、あの農作物に害をなすハムシに似ていますが、それとは違います。 こちらは森のキノコを餌に暮らすキノコムシの仲間なので、害虫ではありません。 形は丸っこいテントウムシのようでかわいらしいですが、見ようによっては赤備えの甲冑をまとう真田が武田信玄軍のようでもあります。 真っ黒なあんよとのコントラストが特徴の、つぶらな瞳もキュートでしょ。



こちらは、春が来たことを告げる花の代表、ユキワリイチゲです。 雪を割って出て来るという名前通り、まさしく寒さに強い花なんだと思ったら、これもサザンカと同じくそれほど寒さに強くはなく、近畿地方より西の本州・四国・九州に自生しています。 今年はずいぶん咲くことを遅らせたようです。 晴れた日中にしか花を開かず、曇り空や夕方にはびたりと閉じてしまうシャイな性格なので、森を散策していて群生しているのを見つけたら嬉しくなります。

こちらはご存じの白梅。 これまた今年は咲くのが遅く、ゆめさきの森でも3月中旬にようやく一輪咲いたそうです。 綾部山の梅林も3月に入った時点ではぜんぜん咲いていませんでしたものね。 だから、ご当地恒例の梅まつりは、主役の梅がほぼ咲いてない中、イベントを開催していたようで、何と、満開を迎える時にはすべての催しが終わっちゃったそうです。 だからミツバチたちにとってもきっと花粉集めは大変でしょう。 梅の実の収穫にも影響があるかもしれませんね。



環境爺(びびい)のつぶやきコラム



ぶつぶつ

年明けから、ずーっと飲み会が続いての。わしゃ飲んべいじゃから、嬉しくてホイホイ参加しておったら、体重がみるみる増えてしもうたんじゃ。以前から言うておったように、高尿酸、高血圧、高血糖の3高じゃ。医者からは運動せよときつく指導されておるのに、今年の寒さはわしをお外の運動へと向かわさない。凍てつく日に外を出歩いては、心臓か脳が破裂するかもしれん、などと言いつまみれに過ごしておったら、とうとう中性脂肪の数値がドカ〜と跳ね上がり、正常値の3倍にも振り切っちゃった。遂に嬉しゅうない高値のカルテット、グランドスラム達成じゃ。さすがに医者の渋い顔は胸に刺さっての。糖質ダイエットを決意した。米・麦・芋・トウモロコシに、もちろん砂糖を劇的に削減。食事量そのものはあまり減らしておらんので空腹感はないのじゃが、エネルギー源である糖質不足でちょっとくらくらしながら2週間ほど経過。なのに体重はそんなに減っておらん。肥満でお悩みの皆に経過報告をするため、3か月は続けてみるつもりじゃ。さてどうなることか、血液検査結果のグランドスラムは改善されるのか、こうご期待じゃ。



さて、今回は食品ロス・フードロスに立ち向かう様々な活動について紹介してみたいと思うぞ。これを読んでくれている皆はもう知っておると思うが、「食品ロス」と「フードロス」はちょっと使い方のニュアンスが違う。食品ロスは食べられる状態の食品が捨てられてしまうこと、フードロスはそれに加えて食料の生産・流通段階で捨てられてしまう

食材も含む概念なのじゃ。いずれにしても食べられる食材が大量に捨てられているということは、それらの生産にかかったエネルギーや資源をも無駄にしているという環境問題に直結する大問題であり、世界中で飢餓に苦しむ人が8億人を超え、十分な食事がとれていない人の割合も50%近くに及びという現状を考えると、SDGsの観点からも早急になんとかせねばならん大きな課題じゃ。



では、フードロスのおさらいじゃ。いろんなデータがあるが、日本では年間500万トン前後のフードロスがある。分かりやすく言うと、日本人一人当たり毎日お茶碗一杯のご飯を捨てているのに等しい量じゃ。4人家族だとお茶碗4杯分捨てておる。世の中、米不足で大騒ぎしているのに我々はせっせとご飯を捨てておるのじゃ。それでも日本はまだましな方で、世界に目を向けると年間でなんと25億トンもの食料が捨てられているそうじゃ。この数字はまだ食べられる食料の廃棄量であって、生ごみは含まれていないんじゃ！！



日本の約500万トンのフードロスの割合は、家庭と事業とに区分すると約半分ずつじゃ。家庭から出るフードロスは、各家庭で無駄がないようにやりくりしてもらうしかなく、個々の意識がだいじじゃ。今捨ててしまった食料で何人の飢餓が救えるか、この資源の無駄使いが資源枯渇をまねかない

か、これらの生産に排出されたCO₂がいかにか地球を温めるか。そういったことに思いをはせねばどうしようもない。一方、事業で出るロスは、法律で抑制する方向に向かせることはできる。それには、食品リサイクル法や食品ロス削減推進法などが代表的じゃな。利益のことを考える事業者にとって余計なロスは最低限にしたいと願っておるのが本心じゃ。だからおのずとロスは減るはずなのじゃが、それが現実はそのようにならない。ある一定のロスは避けられないのが現状じゃ。

ではなぜ、事業におけるフードロスが減らないかというじゃな、主原因は商習慣の「3分の1ルール」だといわれている。これは、品質に細かい日本の商習慣じゃな。何かというと、小売業において「賞味期限の3分の1を超えたものは入荷しない」「3分の2を超えたものは販売しない」という商習慣があるからじゃ。残念じゃがこのルールに従うと、食べられる食品も当然捨てざるを得なくなるのじゃ。製造から小売りに届くまでには、流通期間もあれば卸売りの倉庫保管期間もある。賞味期限の短いものだとあっという間に3分の1なんて超えちゃう。これが米国だと2分の1、仏・伊は3分の2、英国だと4分の3と日本よりはずーっと緩いんじゃ。



ただ、この商習慣を緩くしてもやっぱりある一定量はロスとして廃棄しなければならない。ここを何とかできないかと考え出された活動が、フードバンクやフードドライブといった取り組みじゃ。賞味期限前なのに捨てられてしまう食料を、集めて取りまとめて、必要としている人々や施設にとどけるのじゃ。おもに大型スーパーなどの小売店が主導権をもって活動し、多くのボランティアによって支えられている。最近よく耳にする言葉かもしれないが、いまや世界中の先進国でこの活動は推進されており、日本でも着実に活動が根付きつつある。兵

庫県に限って言えば、33市町が取り組みを進めており、県内にフードバンクと呼ばれる拠点が388カ所もあるのじゃぞ。大型小売店が中心だが、その活動メンバーはボランティアが主に成り立っている。すばらしい！ これら、善意のボランティアをサポートする法整備が求められるところじゃ。欧米では「善きサマリア人の法」といった、善意で行ったことについての行動責任を軽減する考えがあり、日本ではこれに値する「緊急事務管理」という民法があり、他者の利益を守るための行動を保護する法律じゃ。じゃが、いずれももう少し突っ込んで、善行のボランティアを魅力あるものにしていく方法を作らねばのう。



さらに、わしが今気になっておるのは、ロスパンというパン屋さんの取り組みじゃ。パンも売り切れを避けるため販売数より少し多く作るのが普通じゃが、売れ残りは捨てるしかない。そこで、閉店間際に売れ残ったパンを瞬間冷凍させて、箱詰めし、リーズナブルで誰でも利用しやすい通販にするのじゃ。買う側は、種類や個数などは指定できず、不定期ではあるが、美味しい人気のパンが安く手に入るという訳じゃ。パンは冷凍で1か月ほどは美味しく食べられる。パン好きにとっては、人気パンの福袋を買うような楽しさもあるのう。格安とはいえ、経済に寄与し、おまけに消費者は楽しくてロスも減らせる、三方一両得のメリットだけではないか。こんな取り組みが理想的で最高じゃ。



最高と言え、いよいよ関西万博が始まるのう。わしは70年の大阪万博の時代ど真ん中の年代じゃから、ワクワクが止まらんぞ。じゃが、電子チケットもわかりにくいし、パビリオン入場予約も複雑怪奇で意味が分からん。しかも車では行けんな。こんなにめんどくさいなんて、人類ははたして進歩し過ぎたのじゃろうか退化したのじゃろうか・・・

ぶつぶつ

虹の森なう ようやく、森にも春の気配が感じられる季節がやって来ました。今回はまずはシイタケ菌の打ち込み作業からです。ホダ木に駒菌を差し込んでトンカチでポンポンと打ち込んでいきます。もう慣れたもので、ホダ木の運搬と駒菌差しを分担してテンポよく作業が進みます。トンカチ担当のメインはチビっ子達。その打ち込む勢いが豪快で、駒菌差し担当は大慌てです。



あっという間に、ホダ木への菌打ち込み作業は終了し、板伏せして日よけをかぶせて出来上がり。そのまま一月寝かせて、来月には栽培エリアへ移し、馬に本伏せです。栽培エリアをチェックしたところ、シイタケはまだあまり生えておらず、形の悪いのが小さなビニル袋一つ分くらい収穫できました。気になったのは、網を張った培地の中にシカの糞がいっぱい落ちていること。どうやら、網をくぐって入っている可能性も。ということは、鹿さんに美味しく食べられてしまったかも。まいったなあ。



虹の森の東屋でお昼休憩の後には、東屋の朽ちかけた階段を一段だけ修理してみました。結構うまく出来たので、毎回一段ずつ修理していくこととします。あとは、雑木伐採に精を出します。何しろだいぶ斜度のきついエリアの伐採作業を残すのみとなって来ています。でも、この季節は雑木伐りに最適ですし、北側斜面の雑木除去で新デッキがずいぶん明るくなった気がします。この調子で、あと2か月くらいは精力的に木を伐って、新デッキの周りをもっと明るく涼しい場所にしたいところです。ちびっ子たちは森の斜面にこしらえたブランコに大満足。楽しく森で過ごすことが出来ました。えらいぞ。



第105回 森林整備の案内と参加者募集

さて次回は、春真っ只中の活動となる予定です。今回不作だったシイタケもきっとニョキニョキ生えて来ているはず。まずは収穫からですね。ホダ木の本伏せを行ってから、森に入ります。きっとウグイスを筆頭に小鳥たちの歌声に囲まれた作業となるでしょう。木々に新緑も芽吹き黄緑色に輝く森に包まれているかもしれません。初めての方大歓迎です。よろしくね。

日時： 4月12日(土) 10:00~15:00 (9:30公園駐車場集合)

場所： 県立ゆめさきの森公園(虹の森)

申し込み： 参加希望者は、環境管理G 的場まで、またはお近くにいるメンバーまで連絡ください。

的場ケータイ：090-5979-8385

メンバーの方はショートメール等で参加の可否を連絡いただければありがたいです。

初めて参加される方は、保険に加入しますのでお名前、住所、ケータイ番号を連絡ください。